

# 波佐ネット通信

No. 300 2026.6.21

地域研究センター協議会

【参加団体】

西中国山地民具を守る会  
波佐文化協会  
能海寛研究会

## 波佐一本松城ツアー

浜田市指定史跡の波佐一本松城を巡るツアーを6月21日(日)午後1時から2時間互り実施した。防禦を主体とした連郭式城郭を回遊して、往時の戦火の中での城攻めを想定しながら巡回した。風水にもとづいた城の縄張り、表鬼門には神社を勧請し、裏鬼門には切岸を施している。

水の手、水撥ね施設、礫石置き場、土橋の活用などを学習しました。



矢谷口



水撥ね施設



主郭

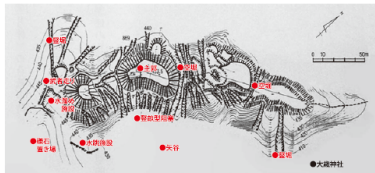
きゆうさんおとしじんじや はざいつほんまつじょう  
**亀遊山大歳神社と波佐一本松城**

この大歳神社は、神亀二年(53)に神祇官河野監物が大井谷の宮地谷大歳社へ派遣された神社である。平安末期に、自己防衛のため亀遊山の現在地に波佐一本松城が築かれ、東北の方向に大歳社が鬼門除けとして、移転遷宮された。

大歳神社の祭神は、大年神、稲倉魂神を祀る。御神体は二柱(二尺五寸、随神は二柱二尺五寸平直秀作である。狛犬一對(二尺三寸)。往時は、大明神原一帯が大歳社の神田があった。永万元年(123)には、神祇官領「長田別府」は、大歳社「黒金」が年貢注文としての記述が見え古代から、たたら鉄・黒金の産地であったことが判る。

元暦元年(1186)に、源氏の武将佐々木高綱によって河野氏が追討された。鎌倉時代は、「長田保」としての荘園地名となり、「承久の乱」以後は、地頭坂上明定・昭胤親子が所領していた。南北朝時代は戦乱の世となり、建武元年(1333)八月、波佐一本松城を中心とした「波佐谷の合戦」が二度あり、戦死者が多数出たため、「千人塚」「剣の墓」が城山の西側に現存している。

二km南方から軍用水路を引き、貯水池を設け、矢谷に水撥ね施設を設け矢谷を駆け上る軍勢を水攻めする施設がある。主郭には、九本の堅敵型阻塞が東側にあり、主郭から弓矢的が絞られる施設となつている。主郭と南側の礫石置き場(三箇所)には、礫石が山積みされている。城郭の東側は垂直に近い五段が切岸に加工されている。



中世の山岳城郭(堅敵型阻塞・複雑な空廓群)の波佐一本松城(市指定史跡)

## 文化財施設の清掃奉仕作業実施

毎年実施している文化財施設の草刈り作業を6月21日(日)午前8時から3時間に亘って、民具を守る会員8名で金城資料館周辺の草刈り作業を実施しました。資料館庭は年間8回草刈り清掃を行なっているが、この時期に行う作業は、民俗資料館から歴史民俗資料館に繋がる国道・県道の歩道や通路の両側の遊休地の草刈りを行い、来館者に気持ち良くお迎えしたいと取り組んでいるものです。

